【令和2年度】

「食品ロス削減の府民行動」に関するアンケート

リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

一般家庭における食品ロス削減に向けて、府民の食品ロスに関する認知度を把握するとともに、府民の買い物や食品保存等の行動について把握し、食品ロスに対する効果的な消費者理解の施策について検討することを目的に、本調査を実施する。

1. 調査（検証）項目

仮説１：食品ロスが問題になっていることを知っている人は、知らない人に比べ、賞味期限・消費期限の違いを知っている割合が高い。

仮説２：食品ロスが問題になっていることを知らない人は、知っている人に比べ、賞味期限切れの食品を捨てる割合が高い。

仮説３：緊急事態宣言前（令和2年4月6日以前）と比べ、買いだめや廃棄行動は増えている。

1. 調査対象

　　家庭内で食材の購入及び調理を行う大阪府民

　　各世代（18～29歳、30代、40代、50代、60代以上）２00サンプル（男女均等割）

　　計1,000サンプル

1. 質問項目

予備質問　５問

1. 性別（SA）
2. 年齢（SA）
3. 都道府県（SA）
4. 家族構成（MA）
5. 食材の購入や調理に関して、最も当てはまる項目（SA）
6. 本質問　1５問

【属性】

1. 「食品ロス」が問題となっていることを知っているか（SA）
2. （Q1＝知っている人）食品ロスについて知ったきっかけや媒体（MA）
3. 食品を無駄にしない行動で、食品の買い物や保存について取り組んでいることはあるか（MA）
4. 外食時の食べ残し料理について、お店側に持ち帰りできるか聞いたことがあるか（SA）

【普段の食品への扱い等について】

1. 賞味期限と消費期限の違いについて知っているか（SA）
2. 賞味期限切れ食品の扱い（SA）
3. よく行くスーパー等で、食品を購入する上で一番重視すること（SA）
4. 事業者側で余った食品等を安価で販売するアプリや販売店を知っているか（SA）
5. （Q8＝知っている人）利用したことがある販売形態（MA）
6. 家庭の余った食品を寄付する活動（フードドライブ活動）について知っているか（SA）
7. （Q10＝知っている人）活動を行ったことがあるか（SA）

【緊急事態宣言前と比べた今の行動について】

1. 宣言前と比べた食品の買いだめの増減（SA）
2. 宣言前と比べた冷蔵庫から廃棄する食品の増減（SA）
3. （Q13＝増えた人）食品廃棄が増えた理由（MA）

【その他】

1. 食品ロス削減につながる内容で、興味があるもの（MA）
2. 検証方法

仮説１：Ｑ１×Ｑ５

仮説２：Ｑ１×Ｑ６

仮説３：Q12、Q13